平成２５年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団体名	長野県教育委員会
研究開始年度	平成２４年度

Ⅰ　概要

1　指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
長野市	小学校	徳間小学校（とくましょうがっこう）
長野市	小学校	七二会小学校（なにあいしょうがっこう）
塩尻市	小学校	吉田小学校（よしだしょうがっこう）
上田市	小学校	神科小学校（かみしなしょうがっこう）

2　研究テーマ

授業のユニバーサルデザイン化及び、児童の教育的ニーズに応じた連続的な教育対応に関する研究

3　研究の内容

（研究内容）

１）「授業のユニバーサルデザイン化」に向けた実践研究

・発達障害等のある子供を含め、全員が楽しく「わかる・できる」授業

２）LD・ADHD 等通級指導教室担当教員による巡回支援の実施

・一部特別な支援を必要とする子供に対する連続的な教育対応

３）連続的な教育対応を展開する校内支援体制の構築

・校内外の資源（人・場）を弾力的に活用し必要な支援を柔軟に展開する方法

（評価の観点及び評価方法）

＜評価の観点＞

・個別の指導計画に基づく指導を通常の学級での授業において、計画的・組織的に位置付ける方法が明らかになったか。

・楽しく「わかる・できる」授業への質的な向上（改善）が図られ、そのプロセスが明らかになったか。

・通常の学級を基盤に、教育的ニーズに応じて連続的で多様な教育対応を展開する校内支援体制が構築され、運営する上でのポイントが明らかになったか。

＜評価方法＞

・モデル研究担当者会を開催による情報共有、研究の成果と課題

・各モデル研究校において授業研究会を実施、外部指導者からの指導助言

4　研究成果の概要

1）「授業のユニバーサルデザイン化」に向けた実践研究について

＜成果＞

・安心できる開かれた学級づくりが授業のユニバーサルデザイン化の土台であることが明らかとなった。また、チェックリストの活用等により、子供が困っている状況に教師自身が気づき、視点を子供に置くことが重要である。

・学習環境の整備に係る配慮については、それぞれの教師の工夫を共有することを出発点とすることや配慮の視点を設けることが、取組の上で大切である。

・授業のユニバーサルデザイン化とは、教科のねらいを達成するために、子供が課題を解くための諸条件（力を発揮できる環境）を整えることであり、子供が感じている困難さを減らせるような工夫であることが確認できた。

＜課題＞

・一時間一時間の授業を評価し、ＰＤＣＡのサイクルで、授業改善を進めていくことが、その学級の子供の実態に応じた授業のユニバーサルデザイン化につながっていく。

・通常学級の担任が作成・活用しやすいものとなるよう、個別の指導計画の形式を工夫することが授業のユニバーサルデザイン化を進める上で重要である。

2）LD・ADHD 等通級指導教室担当教員(以下「通級担当」）による巡回支援の実施

＜成果＞

・以下のような通級担当と学級担任との連携が大切である。

Ａ　児童理解（アセスメント結果を基に特性と支援方法を知る）
Ｂ　〔通級担当→学級担任〕通級による指導の目標を学級担任と共有
Ｃ　〔学級担任→通級担当〕学級での実際の支援が、有効であったかの共有
※　Ａ→Ｂ→Ｃを繰り返しながら、児童理解を深めつつ目標や支援の修正

3）連続的な教育対応を展開する校内支援体制の構築

＜成果＞

・校内委員会で支援の目標とそのための支援、評価の期間を予め決めておくこと、校内リソースの活用にあたっては、これらを踏まえ、支援の方向をはっきりさせること、打合せを行う方法を明確にしておくことが必要である。

＜課題＞

・子供によっては、支援の必要度を見極めた上で、支援者を固定する必要性や支援の期間の検討も必要となる。